

製造分野におけるDX推進

人材育成上の課題・目標

- ・製造現場で利用されているデジタル技術を知りたい
- ・製造で収集されるデータの活用方法について知りたい
- ・製造分野DXでどのような目指す姿があるか知りたい
- ・自社のDX進捗状況を知りたい
- ・自社に合ったデジタル化を図りたい
- ・製造現場でのDX推進の手順を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・製造現場での活用するデジタル技術（ICT、IoT）を理解する
- ・今後の課題解決のため、現状のDX進捗状況の測定方法を理解する
- ・各種装置から得たデータの活用方法と改善に向けた対応を理解する
- ・スマートファクトリ等の製造現場に向けたDXを理解する
- ・DX推進に向けた社内連携・体制の構築方法を理解する

コースのねらい

生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革（DX）を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------------|-----------------|---|
| | ■ 製造業におけるDXの理解 | ・スマートファクトリ ・スマートプロダクト ・スマートサービス ・自社現状のDX進捗状況 |
| | ■ DX実現事例 | ・スマートファクトリ実現事例 ・デジタル技術（ICT、IoT）の製造現場での活用と効果 ・データ収集・連携・活用方法 |
| | ■ DX推進の目標設定と解決策 | ・現状調査と課題の抽出 ・DX適用範囲の決定と目標設定 ・解決策の検討 ・DX化の設計 |
| | ■ DX推進の計画と実行 | ・生産活動の見える化と取得したデータを活用した改善 ・社内部門の連携 ・社外資源の活用と連携 ・人材の育成・確保 |
| | ■ 演習（例） | ・自社現状のDX進捗状況の把握 ・自社の具体的な取組領域（対象や目的、効果、扱うデータ、使用するデジタル技術） ・DX化の設計 ・DX推進に必要な課題の整理 |
| 応用・実践要素（例） | | ・スマートプロダクトの実現方法 ・スマートサービスの実現方法 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層、管理者層

関連コース

- A 生産管理
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産計画と工程管理
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング
- A バックオフィス
 - ・DXの推進
 - ・DXの導入
 - ・IT新技術による業務改善
 - ・データサイエンス入門
 - ・データ活用で進める業務連携
 - ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充
 - ・IoT活用によるビジネス展開
 - ・ITツールを活用した業務改善
- B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善
 - ・DX人材育成の進め方

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

006

原価管理とコストダウン

人材育成上の課題・目標

- ・製造原価を見直してコストダウンしたい
- ・現場改善を行ったが思ったような成果が出ない
- ・現場改善の客観的なデータを把握したい
- ・I E手法による現場改善を行いたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・シミュレーションソフト等により原価シミュレーションする
- ・ロス低減のための改善方法を理解する
- ・見積りコスト算出及びコストダウン実行計画を策定する
- ・I E手法による最適な生産システムを提案する

コースのねらい

低コスト化と生産性向上を目指して、原価管理をコスト（費用削減）と生産性（業務効率向上）の2軸で捉え、企業収益向上のポイントを習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------------|--------------------|--|
| | ■ 原価管理とは | <ul style="list-style-type: none"> ・原価管理の基礎知識 ・原価を構成する要素 ・損益分岐点 ・財務諸表とその読み方 |
| | ■ コスト削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減の着眼点 ・コスト削減のための発注改善 ・職場の物理的ムダの改善 |
| | ■ I E手法による標準時間設定方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・I E（Industrial Engineering）とは ・標準時間の設定手法 ・統計的時間資料の考え方 ・余裕率の設定方法 |
| | 演習（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト等による原価シミュレーション ・ロス（不良、労務費）低減のための改善演習 ・見積りコスト算出・購買・今後の改善案及びコストダウン実行計画策定 |
| 応用・実践要素（例） | | <ul style="list-style-type: none"> ・I E手法による最適な生産システムの設計・改善・構築 ・I Cタグやビッグデータの活用による在庫管理の最新動向 ・現場におけるコストダウン活動のポイントと事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A 生産管理
- ・サービス業におけるI E活用
 - ・購買・仕入れのコスト削減
 - ・POSシステムの活用技術
- A バックオフィス
- ・企業価値を上げるための財務管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

在庫管理システムの導入

人材育成上の課題・目標

- ・在庫削減の進め方がわからない
- ・在庫削減や在庫の適正化の方法を知りたい
- ・在庫管理システムを導入したい
- ・在庫管理システムを導入したと思うように運用できていない



課題解決・目標達成を目指して

- ・在庫量・発注量・需要量を算出する
- ・自社在庫の問題点を洗い出す
- ・在庫管理システムの構築例を知る
- ・システム導入による在庫管理の運用事例を知る

コースのねらい

在庫管理システムを活用した在庫削減をめざして、在庫管理業務の意義と役割を理解し、在庫管理システムを正常に機能させるために在庫管理制度を維持する方法や他の管理システムの計画情報との連動について習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------------|------------|---|
| | ■ 在庫管理について | <ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の対象と在庫管理業務の機能 ・在庫品の評価方法 |
| | ■ 在庫管理システム | <ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理システムによる在庫管理概要 ・システムを機能させるための在庫管理制度の維持 ・他の管理システムとの計画情報の連動について |
| | 演習（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた在庫量・発注量・需要量の算出 ・システムの構築から運用までのトラブルシューティング ・自社在庫の問題点の洗い出し/システムの導入検討 |
| 応用・実践要素（例） | | <ul style="list-style-type: none"> ・作業効率を考えた在庫の置き方 ・I Cタグやビッグデータの活用による在庫管理の最新動向 ・システム導入による在庫管理の実施事例 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
- ・購買・仕入れのコスト削減
 - ・在庫管理の進め方
- A 流通・物流
- ・流通システム設計
 - ・物流システム設計

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

在庫管理の進め方

人材育成上の課題・目標

- ・在庫削減の進め方がわからない
- ・在庫削減や在庫の適正化の方法を知りたい
- ・在庫管理の適正化を行い在庫精度を向上させたい
- ・過剰在庫や欠品が改善されない



課題解決・目標達成を目指して

- ・在庫量・発注量・需要量を算出する
- ・自社在庫の問題点を洗い出す
- ・在庫精度（在庫削減・適正在庫）の考え方を理解する
- ・発注点管理やABC分析（重点分析）など定量管理手法を習得し改善の仕組みを理解する

コースのねらい

コスト管理及び納期管理の視点による定量管理手法による業務改善目標の作成方法を理解して、コスト削減に必要な知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------|--------------|--|
| | ■ 在庫管理の考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の対象と在庫管理業務の機能 ・在庫品の評価方法 ・在庫回転率と資金繰りの関係 |
| | ■ 在庫の適正化について | <ul style="list-style-type: none"> ・棚卸差異の分析と精度向上 ・発注点・安全在庫の設定、在庫回転率 ・発注リードタイムと在庫回転日数の適正值 |
| | 演習（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた在庫量・発注量・需要量の算出 ・棚卸記録と差異分析シミュレーション ・簡易在庫シミュレータ作成 |
| | 応用・実践要素（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・作業効率を考えた在庫の置き方 ・自職場の在庫課題、改善提案と事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
- ※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層、中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・在庫管理システムの導入
 - ・購買・仕入れのコスト削減
- A 流通・物流
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

購買・仕入れのコスト削減

人材育成上の課題・目標

- ・コスト構造分析を実施してコスト削減を
実行したい
- ・自社のコスト削減活動の現状と課題を
知りたい
- ・コストダウン手法を知りたい
- ・コスト削減の余地を定量的に把握して、
利益確保のための計画を立てたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・課題を通じた見積もりコストの算出方法を
理解する
- ・購買業務の問題発見方法を理解する
- ・改善案及びコストダウン実行計画を策定
する
- ・現場におけるコストダウン活動のポイント
を理解する

コースのねらい

製品の価格と売上に直結する購買・仕入れ業務の重要性とコストの関係を理解し、購買・仕入れ活動におけるコスト削減に必要な知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------|----------------------|---|
| | ■ 購買・仕入れ業務の理解とコストの関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・購買・仕入れ業務の理解 ・購買・仕入れ業務の役割と重要性 ・購買・仕入れ業務における経費削減の実現方法 |
| | ■ V A（価値分析）活動による経費削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・品質とコストの関係 ・現行製品の設計と材料の分析 ・仕入先の工夫による原価経費の削減 ・代替案の実行可能性の検討 ・再設計による原価削減 |
| | 演習（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた見積もりコストの算出 ・購買・仕入れ業務の問題発見 ・自社における今後の改善案及びコストダウン実行計画の策定 |
| | 応用・実践要素（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・発注先選定の戦略と日常管理 ・クラウドを用いた購買・仕入れ業務改善 ・現場におけるコストダウン活動のポイントと事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・原価管理とコストダウン
 - ・在庫管理システムの導入
 - ・在庫管理の進め方
- A 流通・物流
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
- A バックオフィス
 - ・企業価値を上げるための財務管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

POSシステムの活用技術

人材育成上の課題・目標

- ・POSシステム導入のメリット・デメリットを知りたい
- ・POSシステムを活用して顧客の囲い込みを実現したい
- ・POSシステムのデータを活用して売上げをあげたい
- ・POSシステムを効率的に活用したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・POSシステム導入によるハード・ソフト双方のメリットを洗い出す
- ・顧客データを活用する
- ・外部POS・外部EOSデータを活用する
- ・クラウド型POSを活用する

コースのねらい

POS (Point of sale) システムのメリットを理解し、販売管理、販売戦略に活用できる知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------------|----------------|--|
| | ■ POSシステムの概要 | ・小売業における情報化戦略 ・POSシステムの概要 |
| | ■ POSシステムの導入事例 | ・POS導入 ・POSデータ処理 ・POSデータを活用した販売管理 |
| | 演習（例） | ・POSデータ処理演習 ・POSシステム導入によるハード・ソフトメリットの洗い出し |
| 応用・実践要素（例） | | ・POSシステム活用の局面（外部POS、外部EOSデータの活用等） ・クラウド型POSの活用技術 ・事例紹介（スーパー、VC、チームマーチャンダイジング等） |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

A 生産管理
・原価管理とコストダウン
・在庫管理システムの導入

A 流通・物流
・物流のIT化

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

品質管理基本

人材育成上の課題・目標

- ・品質データの分析方法及び評価方法を
知りたい
- ・品質データの分析結果を活用して現場改善
につなげたい
- ・品質管理情報を活用して品質向上に
につなげたい
- ・QC活動の必要性や背景を全社的に浸透
させたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・品質データの分析方法及び評価方法を理解
する
- ・図面、資料の管理方法を理解する
- ・品質管理手法の最新動向を知る
- ・QC 7つ道具を用いた自社の問題発見と
管理方法を理解する

コースのねらい

品質管理の考え方を理解し、QC 7つ道具を使って課題への対処ができる知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------------|------------|---|
| | ■ 品質管理の考え方 | ・品質管理とは ・検査とは |
| | ■ QC 7つ道具 | ・QC 7つ道具と使い方 ・QC的問題解決の進め方 |
| | 演習（例） | ・表計算によるQC 7つ道具の使い方演習（管理図、パレート図等） ・特性要因図を用いた問題発見演習 ・QC 7つ道具を用いた自職場の問題発見と管理 |
| 応用・実践要素（例） | | ・新QC 7つ道具の概要 ・ビッグデータを用いた品質管理の最新動向 ・QC 7つ道具を使った品質管理手法の好事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層

関連コース

A 品質保証・管理
・品質管理実践

A バックオフィス
・クラウド活用入門
・クラウドを活用したシステム導入

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

品質管理実践

人材育成上の課題・目標

- ・慢性不良をゼロにしたいが上手くいかない
- ・品質データの分析結果を活用して作業を標準化したい
- ・QCサークルなどの小集団を組織したい
- ・IoT、AIなどのITを活用して不良改善したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・不良・クレーム発生原因を分析する
- ・品質管理活動の推進方法を理解する
- ・作業標準を作成する
- ・QC的問題解決法を理解する
- ・クラウドを活用し、データを情報共有する

コースのねらい

品質管理の考え方を理解し、不良・クレームゼロを実践するために必要な知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------------|----------------|---|
| | ■ 品質管理の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理と不良ゼロ ・品質管理と品質保証 |
| | ■ 品質管理活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理活動の基本 ・作業標準化 |
| | ■ 不良・クレームゼロの実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・QC的問題解決法 ・不良・クレーム発生の原因分析とゼロにする対策 ・再発防止 |
| | 演習（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じたQC的問題解決演習 ・事例を用いた不良・クレーム発生原因の分析 ・自職場における作業標準書の作成 |
| 応用・実践要素（例） | | <ul style="list-style-type: none"> ・新QC7つ道具 ・クラウドを活用したデータ管理と情報共有 ・QC導入による付加価値（コストダウン等）事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

A 品質保証・管理
・品質管理基本

A バックオフィス
・クラウド活用入門
・クラウドを活用したシステム導入

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

053

サービスマネジメントによる品質改善と向上

人材育成上の課題・目標

- ・画一的なサービスの提供ができていない
- ・自社サービスの課題を発見したい
- ・サービス品質を改善するサービスマネジメントについて知りたい
- ・価格以外の競争優位性を高めたい
- ・ボトムアップによるサービス品質の改善を図りたい
- ・市場・顧客の拡大から利益の最大化を図りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・サービスの特徴と性質を再確認する
- ・サービスの基本と顧客との関係づくりについて理解する
- ・サービスマネジメント行動を理解する
- ・効果的な品質改善案を検討する
- ・新たなサービスの経営特性を理解する
- ・自社におけるビジネス活動の問題解決方法を理解する

コースのねらい

現場でサービスを提供する個々の従業員が、顧客視点に立つことにより提供しているサービスにおける課題・問題点を発見し、ボトムアップによりサービス品質の改善や向上に向けた具体的な行動に移すための手法を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------|--------------|---|
| | ■ サービスの理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの特徴と誤解 ・サービスの性質（無形性、不均一性、同時性、消滅性） ・サービスの価値とコスト ・現場での問題発見・解決 |
| | ■ サービスマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの品質の再考 ・サービスマネジメントによる品質改善（マーケティング、オペレーション、人的資源管理） ・ボトムアップによる改善プロセス |
| | 演習（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・現場の課題を通じたサービス品質改善演習 ・事例を用いたサービスマネジメントのケーススタディ ・自社事例を使つての品質改善提案演習 |
| | 応用・実践要素（例） | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの特性における品質改善 ・ビッグデータを用いたサービス向上の最新動向・事例紹介 ・ものづくり現場での顧客視点での改善事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 流通・物流
 - ・卸売業・サービス業の販売戦略
- A 生産管理
 - ・サービス業におけるIE活用
- C 営業・販売
 - ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- C 企画・価格
 - ・製品・市場戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

3 P L と S C M

人材育成上の課題・目標

- ・物流全体の最適化・効率化を実現したい
- ・物流コストを削減したい
- ・3 P L と S C M の最新動向を知りたい
- ・3 P L 物流のプロデュースについて最新情報を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・物流のアウトソーシングを理解する
- ・コンセプト作りからデータ分析、コスト・シミュレーションする
- ・I T を使ったロジスティクスの最新動向を知る
- ・4 P L 組織が提供するサービス事例を知る

コースのねらい

物流のアウトソーシングの実態を理解し、3 P L (third - party logistics) と S C M (Supply Chain Management) との関連についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

| 基本要素 | 基本項目 | 主な内容（例） |
|------|--|---|
| | ■ 物流のアウトソーシング | ・ 物流の内容 ・ 物流のアウトソーシング |
| | ■ S C M (Supply Chain Management) との関連 | ・ サプライチェーン・マネジメント ・ 3 P L と S C M との関連 |
| | 演習（例） | ・ 3 P L 営業に必要なデータ分析手法 ・ ケーススタディ（コンセプト作りからデータ分析、コスト・シミュレーション） ・ 3 P L 提案書の作成 |
| | 応用・実践要素（例） | ・ 輸送コスト分析、物流センターの生産性向上 ・ I T を使ったロジスティクスの最新動向 ・ 4 P L 組織が提供するサービス事例紹介 |

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層

関連コース

- A 流通・物流
 - ・ 物流の I T 化
 - ・ 流通システム設計
 - ・ 物流システム設計
 - ・ S C M の現状と将来展望
- B 組織マネジメント
 - ・ 物流現場のリーダー育成
- C プロモーション
 - ・ プロモーションとチャネル戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。